

## 医療情報研究室

室長 岡垣篤彦

医療情報研究室では、医療への IT 応用に関するソフト、ハードの両側面の研究を行っている。病院において実稼働している病続情報統合システムを用いた研究、病院情報システム本体の機能拡張に関する独自の研究を実施する一方、治験・臨床研究や医療安全に関するシステムの検討、シミュレーションや統計などの情報科学の医療応用に関する研究を行っている。また、ネットワーク技術や画像処理技術の応用・改良など、情報処理の基盤技術に関連した研究も行っている。早急に実用化することを求められている災害時の国内標準電子カルテについて、あるいは SS-MIX、SS-MIX2、MML、openEHR といった標準規格を通して異なる電子カルテシステム間のスムーズな連携についても研究を行なっている。国内で行なわれている医療機関間のデータ共有に関する主要な研究プロジェクトのうち代表的な3つのプロジェクト、すなわち、国立病院機構の「電子カルテデータ標準化等のための IT 基盤構築事業」、京都大学が主導する「次世代医療 ICT ワーキンググループ事業-千年カルテプロジェクト」、および大阪大学が主導する「病院情報システムデータを利用した横断的研究基盤構築に関する研究」に参加している。

平成 23 年年末に更新した電子カルテシステムは、システムの応用範囲が広くなり、データ利用についても多彩な可能性が考えられる。このシステムを用いて岡垣室長を中心に開発してきたカード型カルテシステムの発展をめざすと同時に経営分析的な視点を新たに研究対象に加えている。平成 26 年 1 月より実用化された救命救急外来経過表は、救命救急外来の診療速度について国内で最も進んだ電子カルテとして大きな注目を集め、東京大学、京都大学、沖縄中部病院など、国内の一流研究・医療機関より見学を受け入れた。

平成 25 年度は災害医療研究室と共同で厚労省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対する DMAT による急性期医療対応に関する研究」において GIS の技術を用いた DMAT 被災地派遣支援ソフトウェアの開発を行い平成 26 年度に報告書を上梓したが、国会での来るべき甚大災害に対する医療支援に関する議論に対しデータの供給を行なうなど国内の甚大災害対策に貢献した。引き続き災害関連の研究として平成 27 年度より厚労省指定研究「首都直下地震に対応した DMAT の戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」を 2 年間行なった。南海トラフ地震への医療支援に関してはその後も継続的に研究に参加しており、平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）分担研究「南海トラフ地震に関する研究」に共同研究者として参加している。医療情報学会において「災害・救急医療へのユーザーメイド IT の貢献」というテーマでワークショップを主催した。

### 【2016 年度 研究発表業績】

A-3

岡垣篤彦: 災害、救急医療と医療情報 3-F-1 ワークショップ「医療情報学」36 (Suppl.)、P.222-225、2016 年 11 月 1 日

#### B-4

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：病院情報システムのデータから大規模災害時用 ID の妥当性を検証する。第 20 回医療情報学会春季学術大会、松江、2016 年 6 月 4 日

Okagaki A：Electronic Medical Record For Emergency medicine. FileMaker Developer Conference, Las Vegas, July 20 2016

岡垣篤彦：災害・救急医療へのユーザーメイド IT の貢献 ワークショップ 07：災害、救急医療と医療情報。第 36 回医療情報学連合大会、横浜、2016 年 11 月 23 日

#### B-5

岡垣篤彦：ユーザーの作る電子カルテー大阪医療センターのカード型カルテー。中部医療情報技師研究会、名古屋、2017 年 2 月 20 日

岡垣篤彦：災害・救急医療へのユーザーメイド IT の貢献。第 2 回山陰文化圏医療情報技術研究会、松江、2016 年 7 月 9 日

岡垣篤彦：ユーザーメイドの入力ツール。日本医療情報学会関西支部 第 1 回講演会・関西医療情報処理懇談会・関西医療情報技師会 合同講演会、大阪、2016 年 10 月 1 日

岡垣篤彦：電子カルテに何を入れるのか。第 35 回医療情報学連合大会、宮崎、2016 年 10 月 15 日